

# 英語のカリキュラム改正と学生の英語に対するニーズの検証

林 響子, 出縄 貴良

了徳寺大学・教養部

## 要旨

2022年度からのカリキュラム改正にあたり、英語科目では英会話とベーシック・イングリッシュを新設することになった。この科目の設置は教職員間の議論の末に行われたものであり、学生の意向を反映して決定したものではなかった。そのため、この新科目の設置が学生の学びの意向に沿うものであったかを明らかにする目的で、1年生288人に対してアンケート調査を行った（回答率92.0%）。アンケートでは大学で学びたい英語科目や技能、英語学習に対する意欲・関心などについて尋ねた。その結果、33.8%の学生がスピーキング（英会話）を、20.3%の学生が文法（英語の基礎）を学びたいと回答し、リーディング、リスニング、ライティングを選んだ学生よりも多かった。したがって、英会話とベーシック・イングリッシュを新科目として設置したことは結果的には妥当であったことが示唆された。

キーワード：英語教育, ニーズ分析, 医療英語, 選択科目, 必修科目

## English language learning: University students' expectations regarding new curriculum

Kyoko Hayashi, Takayoshi Denawa

Department of Liberal Arts, Ryotokuji University

## Abstract

The university has decided to add English Conversation and Basic English courses to the English language learning curriculum starting 2022. However, at the time the decision on revising the curriculum was made, students' opinion was not sought. Therefore, we used a questionnaire survey to determine the topics the students were expecting to study and whether they were covered by the new subjects. We asked 288 first-year students about the English subjects they expected to take, the skills they expected to acquire and develop, their interest in English language learning, among others. The results revealed that 33.8% of the students expected to improve their speaking skills and 20.3% of them wanted to learn basic English grammar. Therefore, the implementation of the English Conversation and Basic English courses would be desirable.

Keywords: English-language teaching, needs analysis, medical English, elective subject, required subject

## I. はじめに

グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であり<sup>1)</sup>、効果的な英語コミュニケーションを行うための英語運用能力を高めることが喫緊の課題となっている<sup>2)</sup>。また、医療系学生は、大学在学中や専門職に就いた後も文献研究、研究発表、国際学会出席、外国人患者とのコミュニケーションで英語の使用が不可欠であり<sup>3)</sup>、現場では外国人患者に対応できる英語力を身につけた「医療人」が求められている<sup>4)</sup>。当然、医療系大学である了徳寺大学（以下、本学）にとっても、そのような

医療人の育成が責務である。

そのような中、本学では、2022年度より新しいカリキュラムによる授業運営が始まる。このカリキュラム改正には、上述のようなグローバルな医療人を育成すべく、英語教育の充実化も目標に含まれていた。それに伴い2つの新科目が選択必修科目として設置されることとなり、希望する学生は現在のカリキュラムよりも英語科目の選択肢が増え、より多くの時間を英語学習に充てることが可能となる。

この新科目は、新カリキュラム作成のスケジュールの都合上、英語教員を中心とした教職員による話し合いで決定された。この決定は経験則的に、こういった科目が学生にとって有益であるかや、こういった科目を学生が望んでいると考えられるかということに基づいてなされたものである。言い換えれば、学生の意見は反映されていないということである。学生のニーズに合わせた授業の重要性については、これまで非常に多くの研究によって指摘されてきた。寺内ら<sup>5)</sup>によるとLong<sup>6)</sup>は、目標領域に精通していない学習者の場合は、教師がそのニーズを決定する必要があるとしている。しかし一方で、藤本・松尾<sup>7)</sup>は「学生にとって、希望科目を受講する場合と希望しない科目を割り当てられる場合では、学習意欲の点で大きな差が考えられる」とし、また「選択科目による学生の効用の不充足は、学生たちの修学意欲やモチベーションを大きく損なわせるという極めて重大な教育的な危険性をも持ち合わせていることも指摘できる」と述べている。

したがって本研究の目的は、学生に対してアンケート調査を行い新科目が学生のニーズに合った適切な科目選定であったかどうかを検証することである。また、新科目だけではなく、現在のカリキュラムから新カリキュラムへ引き継がれる既存の英語科目についても、学生の希望に沿った内容となっているかどうかを検討し、その結果を今後の授業運営に反映させ、より良い授業づくりに役立てることも本研究の目的である。

本研究は、了徳寺大学生命倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号：21-31）。

## Ⅱ. 現在の英語のカリキュラムと新カリキュラム

### 1. 現在の英語のカリキュラム

現在、本学の英語のカリキュラムは学科によって若干異なっている。理学療学科（以下、理学）と整復医療・トレーナー学科（以下、整復）は、1年次に履修する総合英語Ⅰ（前期）と総合英語Ⅱ（後期）が必修で、2年次に履修する実践医療英語Ⅰ（前期）と実践医療英語Ⅱ（後期）は選択となっている。一方、看護学科（以下、看護）は総合英語<sup>i)</sup>に加え、実践医療英語Ⅰも必修となっている。

総合英語では基本的に医療英語を扱っているため、クラスによって扱うテキストは異なる場合があるが、すべてのクラスで医療英語に関するテキストを使用している。また、担当教員によっては映画を見せたり、文法の復習をプリントで行ったり、スピーキングの練習を行う時間を設けることもある。

実践医療英語Ⅰ、実践医療英語Ⅱでは、すべてのクラスで同じテキストを使用することとし<sup>ii)</sup>、テキストに沿って医療英語を深く学んでいく。

このように、現在の本学の英語のカリキュラムでは、基本的に医療英語を学ぶだけとなっており、一般的な大学に設置されている英会話やリーディング、ライティングなどの英語の技能に特化した科目や、TOEICなどの資格試験対策の科目がない。また、基礎的な内容が理解できていない学生も多く、総合英語や実践医療英語の中で中学・高校で学んでいるはずの文法や表現などをある程度時間をかけて説明する必要がある。医療英語のみに集中して授業を進めることができない。そのため、現在の英語のカリキュラム

を見直し、学生にとってより良い授業編成を検討することになった。

## 2. 新カリキュラム

本学は医療系大学として、医療英語を扱う授業は必ず行わなければならない。そのため、全学科で1年次に履修する総合英語Ⅰ、総合英語Ⅱはそのまま必修とし、この授業の中で必ず医療英語を扱うこととする。また、詳細は後述するが、実践医療英語Ⅱは廃止して実践医療英語Ⅰを「実践医療英語」とし、すべての学科で選択科目とする。

その上で、現在のカリキュラムでは時間をかけて説明ができない英語の基礎を扱う授業と、学生が卒業後に外国人患者と接するときに円滑なコミュニケーションをとることができるように、会話をメインとして実践できる英会話の授業を行うことが望ましいのではないかと結論に至った。そこで、選択科目として1,2年次に履修できる「ベーシック・イングリッシュ」と「英会話」の授業を新設することとした。

以下に、学科別の現在のカリキュラムと新カリキュラムの表を示す。

表1. 学科別の現在のカリキュラム

学科/科目	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	実践医療英語Ⅰ	実践医療英語Ⅱ
理学	必修	必修	選択	選択
整復	必修	必修	選択	選択
看護	必修	必修	必修	選択

表2. 学科別の新カリキュラム

学科/科目	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	実践医療英語	ベーシック・イングリッシュ	英会話
理学	必修	必修	選択	選択	選択
整復	必修	必修	選択	選択	選択
看護	必修	必修	選択	選択	選択

## Ⅲ. 調査方法

新設置科目の妥当性の検証や学生の英語の授業に対するニーズや意識についての調査を行うためにGoogleフォームを介してアンケートを行った。質問内容は大きく分けて以下の3つである。①履修を希望する科目、②英語の授業内で特に学びたい技能、③英語学習への関心・意欲である。対象者は本学の1年次必修科目である総合英語の2021年度履修者である。本調査は各担当教員の協力を得て授業内において実施し、学生には各自の携帯電話から回答してもらった。アンケートの冒頭に無記名、参加の自由、個人情報の保護、およびアンケートの回答によって回答者が不利益を被ることはないことなど、倫理的配慮を十分に行うことを明記した文書を添付し、それを読んでもらい納得できた場合にアンケートの回答へと進んでもらった。その結果、履修者288名のうち265名から回答があった（回答率92.0%）。なお、本アンケートの中で総合英語の担当教員を答えてもらっており、各回答がプレイスメントテストでレベル分けされたどのクラスに属する学生からのものであるかは分かるようになっている。

#### Ⅳ. 調査結果と考察

##### 1. 新設科目

###### 1) 英会話

英語の新設科目を設置するにあたり、まず最もニーズがあるであろうと想定されたのが英会話である。グローバル化が進む中、外国人と英語でコミュニケーションをとる必要が今後ますます高くなっていくであろうことは容易に想像でき、英語を話せるようになりたいと思っている学生は少なくないと考えられる。実際に、昨年度の実践医療英語Ⅱの授業で自分の意見を英語で述べる時間をとった時、ほぼすべての学生が自ら手を挙げて積極的に発言していた。また、昨年の授業改善アンケートに「もっと英会話をやりたかった」と記述した学生もいた。

総合英語でも英語を話す時間を取りたいが、特に下位クラスでは1年かけても教科書の半分程度しか終えることができないこと、医療英語を理解するための単語や表現、文法などを説明するのに相当時間がかかることから、会話のための時間を毎回ある程度とすることは難しい。そのため会話を中心とした授業を別に設ける必要があると判断し、英会話を設置することにした。

一方で、Ⅲで述べたように、学生が実際に英会話の授業を求めているかどうかを調査するためにアンケートを行った。まず、大学でどのような英語科目を履修したいかとの問いに対し、医療英語と答えた学生が54.7%と最も多く、次に英語の基礎と答えた学生が23.0%、そして英会話と答えた学生は22.3%であった（図1）。さらに、ともに「教職教養科目」の「情報の活用」の区分に設置されている情報処理演習と統計学を選択肢として加え、この5つの科目の中から2科目を選択するときに、どの科目を履修したいかを尋ねた。その結果、医療英語が最も多く（33.0%）、その次が英会話であった（24.3%）。英語の基礎は22.5%の学生が選択し、情報処理演習は16.8%、統計学はわずか3.4%の学生しか選択しなかった（図2）。また、英語の授業で何を学びたいかとの問いには、スピーキング（会話）と答えた学生が33.8%と最も多く、次に文法が20.3%と続いた（図3）。

以上の結果を見ると、英語の科目としては医療英語が最も学びたい科目として挙げられていた。これは、高校までで学んだことのない医療英語が自分の将来に最も役に立つはずであるから医療英語を選ぶべきだと判断した学生が多いからではないかと考えられる。英会話に関しては、英語3科目の中から選択した場合、数の上では最も選ばれなかった選択肢になってしまったが、2番目の英語の基礎との割合はほぼ同じであり、5人に1人は英会話を学びたいと思っていることには着目すべきである。また、情報処理と統計学を加えて5科目のうちから2科目選択した場合、英会話は医療英語に次いで2番目に多く選択されていることから、医療英語は学ばなければならないが、もう一つ選択できるなら英会話を選択したいと考える学生が多かったことが分かる。実際に医療英語と英会話の2科目を選択した学生は265人中83人であり、3割以上の学生がこの組み合わせを選んでいる。

次に、英語の技能としてスピーキングを学びたいと回答した学生が最も多かったのは、やはり普段の医療英語の授業の中でなかなかスピーキングの練習をする機会がなく、もっと英語を話したいという学生の希望が表れている結果ではないかと考えられる。特に総合英語で扱っている教科書には、リスニングとリーディング、そしてライティングのセクションがあり、そこは時間をかけて学ぶことができる。また、これらを扱う際には必ず文法の説明が必要となり、文法を学ぶ機会もわずかながらにある。しかし、スピーキングについては、せいぜい教科書の会話文の役割練習やそのアレンジくらいしかできず、自分たちで自由に会話をするには教科書を離れて時間をとる必要があり、なかなかそのような余裕がない。そのためか、



アンケートで大学の授業の予習・復習・試験勉強以外に英語を勉強しているかどうかという問いに対し、「YouTubeなど見て会話文」<sup>iii)</sup>、「よく使われる英会話の本を読んでいる」との回答があり、会話は自分で学ばなければいけないと考えている学生がいることが分かった。

以上の結果から、多くの学生が英語を話す機会を求めており、話すことを学びたいと考えていることが分かる。したがって、英会話を本学の授業に新設することは妥当であったと言える。

## 2) ベーシック・イングリッシュ

ベーシック・イングリッシュは、英文法を中心に英語の基礎を身につけることを目的として新たに設置された。したがって主な対象者は英語を苦手とする学生やもう一度基礎を学び直したいという学生である。

本学の一般入試では英語が選択であり、必須科目ではない。また、推薦入試で英語を受験せずに入学する学生も少なくない。実際、本アンケート対象者のうち40%以上が英語を受験せずに入学している。

この様な中、現在のカリキュラムでは1年次の英語科目は総合英語しかないため、この中で医療英語を扱いながら、必要に応じて文法の復習も行わなければならない。総合英語はプレイスメントテストによるクラス分けがなされており、特に下位クラスではテキストの内容を理解できるようになるために文法などの基本事項の復習に時間を割かなければいけないことが多々ある。神谷<sup>8)</sup>は基礎的な英語力が身に付いていないと大学の英語学習があまり効果的に作用しないケースがあることやそのような学生は日々の英語の授業や課題に苦勞しているということを指摘し、何らかの新たな対応が急務であると述べている。このような現状を踏まえ、学生がもう一度基礎を学び直し英語力の底上げができるように、そして必修科目の総合英語では、より医療英語に集中できるようにとベーシック・イングリッシュが設置された。

基礎力の底上げに焦点を当てたベーシック・イングリッシュの設置に関して、学生の状況を把握している教職員から異論が出ることはなかった。では学生のニーズはどうであろうか。アンケート調査の結果から、本科目が学生のニーズに合っているということが分かった。学生は学びたいこととして文法をスピーキングに次いで2番目に挙げている（図3）。英文法は高校までの英語教育で一通りは終わっているはずである。それにもかかわらず文法を学びたいこととして挙げる学生が多いということは、これまで習ってきたことをもう一度学び直すことの必要性を自覚しているということだと思われる。言い換えれば、基礎が身に付いていないと感じる学生が多いということである。このように学生のニーズに合った科目を新たに設置できたことは非常に有意義なことであると言える。またムヒナ<sup>9)</sup>は、学習者の意思を問わず学ばされる必修科目よりも、学習者が何らかの理由をもって自ら選ぶ選択科目の方が動機づけが高いと分析している。ベーシック・イングリッシュでも文法を学び直したいと考える学生が自ら選択することで、より高い動機づけを得られることが期待される。

ただし、今回のアンケート調査の結果から注意すべき点も見つかった。上述した通り、本科目の主な対象者は英語を苦手とする学生やもう一度基礎を学び直したいという学生である。しかし、各学科の一番下のクラスの学生の回答を見てみると、43人中19人しか文法を学びたいと回答していなかった。これまでの経験上、英語が苦手な学生は基本的な文法が身に付いておらず、最下位クラスで文法と回答した学生が少なかったことには文法に対する苦手意識も少なからず関係しているように思われる。これは本当に必要な学生の多くが本科目を履修しない可能性を示唆している。新カリキュラムが適用される来年度以降の新入生の履修状況を継続的に調査する必要があるだろう。そして今回のアンケート調査の結果通り、英語を苦手とする学生が本科目を避ける傾向にあれば、例えば新入生ガイダンスで英語が苦手な学生にとって本科目

が必要であることを説明したり、総合英語の授業内で2年次に履修するようにアドバイスしたりする等の対策を取り、本当に必要な学生が履修するように促すことが大切である。

### 3) 資格英語

本項では新設置科目の候補に挙がっていた資格英語について簡単にではあるが触れておきたい。新カリキュラムのための新たな英語科目を決める際に、設置科目数は2科目と決まっていた。その新たな2科目として英会話とベーシック・イングリッシュが決まったことは既に述べてきた通りである。この2科目の他に有力な候補として挙がっていたのがTOEICやTOEFLや英検等を扱う資格英語であった。こういった検定において高いスコアを持っていることは、留学や就職の際に有利に働くため、資格英語は他大学でも力を入れている所が多く、重要な科目である。しかし、今回のカリキュラム改正での新設置科目としての採用は見送ることとした。その理由を以下に述べる。

一点目は、学生が受験料を負担しなければいけないということである。授業で資格英語を扱う以上は、成果の確認として実際に検定を受験してもらわなければならない。その場合TOEICであれば約7千円、英検であれば1万円程度を学生が支払わなければならない。負担が大きいと考えた。二点目は、本学学生が希望する就職先において、このようなスコアが優遇されることはそれほど多くないということであり、英語の資格対策で負担をかけるよりも本学学生の最大目標である国家試験合格に専念してもらいたいと考えたからである。そして三点目の理由として、これまでの経験上、このような資格対策に興味を持っている学生は少ないと思われたことが挙げられる。このような資格英語についての相談をする学生が毎年2、3名程度であったため、新たに設置されることとなった2科目よりは優先度が低いと判断した。

アンケートの結果、英語の資格取得対策の授業を「受けたと思う」が44.5%で、「受けたと思わない」が55.5%であった(図4)。半数近くの学生が資格英語に興味を持っているということは予期していなかったことである。

これだけの学生のニーズがある以上は何かしらの対応が必要である。現状、授業内で資格英語の対応をすることは難しいが、授業外でもできることはあると考える。まず大学図書館に関連図書を揃え、学生が自習できる環境を整える。そして自分だけでは解決が難しい場合はオフィスアワーを活用し教員に尋ね、必要に応じて教員は課題等を出す。この流れができれば授業でなくても、十分資格英語の勉強ができるはずである。興味はあるが何をすればよいか分からないという学生が多いことが予想されるため、図書館やオフィスアワーの利用を授業内などで頻繁にアナウンスすることが重要であろう。

しかし、例年の資格試験に対する学生の相談数や図書館資料の利用状況から考えると、これだけの割合の学生が資格英語について真剣に取り組みたいと本当に考えているのかについては依然としてやや疑問が残る。アンケートで資格英語を「受けたと思う」と答えた人数と実際に講義を受講する人数には乖離がある可能性も否定できない。今後は、受験料のことや、高スコアを取るためにはタイトなスケジュールの中で継続的に学習をしなければならないことなどをしっかりと理解したうえで、なお受講を希望する学生がどれ程いるのかということを調べていく必要がある。そして必要であれば、学生の要望に応じて更なる対応を検討していきたい。

## 2. 既存の科目

本節では現在のカリキュラムから新カリキュラムへ引き継がれる既存の総合英語と実践医療英語につい

て、新カリキュラムでの展望を中心に考察する。

### 1) 総合英語

1年次の必修科目であり、プレイスメントテストによるクラス分けが行われている科目である。現在のカリキュラムでは、医療英語を必ず扱うこととし、それ以外に授業内で何を教えるかは担当教員の裁量に任されている。この方針は新カリキュラムになっても変わらない。

下位クラスと上位クラスとでは英語の習熟度にかかなりの差があり、下位クラスではテキストの内容を理解できるようになるために文法の復習に多くの時間を割かなければいけないというのが現状である。それに対して上位クラスでは基本事項の復習に割く時間が少なくて済む分、医療を扱った海外ドラマの視聴や問診等の会話練習に時間を使うことができる。つまり上位クラスと下位クラスでは医療英語に充てることのできる時間に相当な差ができてしまっているということである。プレイスメントテストによるクラス分けを行っているので、この差は当然であるといえそうであるが、問題は、実践医療英語Ⅰは理学と整復は選択科目であるため、プレイスメントテストの結果が反映されず、総合英語で下位クラスに属していた学生と上位クラスに属していた学生と一緒に受講することになるということである。授業内容については後述するが、実践医療英語Ⅰは総合英語の発展という位置付けであり、より深く医療英語を学ぶことを目標としている。つまり総合英語で医療英語をしっかりと学んでいることが前提となっている。

新カリキュラムでは、ベーシック・イングリッシュが新設されることで、文法事項の復習をそちらで行うことができるようになるため、総合英語ではより医療英語に集中することが可能となる。本学学生は医療人を目指しているだけあり医療英語への関心が高い(図1, 図2)。医療系大学に入学し、英語の授業で医療英語を学ぶことができると期待していたのに、実際には文法の復習の時間が多いとなると、学習への意欲を失ってしまう危険性がある。以上を踏まえると新カリキュラムは現在のカリキュラムよりも学生のニーズに合っており、よりモチベーションを保てる編成になっていると言える。

### 2) 実践医療英語

新カリキュラムに移行するにあたっての変更点についてはⅡで述べた通りである。懸念されたことは実践医療英語Ⅱを廃止してもよいのかということであった。実践医療英語Ⅱは2年次の後期からしか履修することができないため、履修者の数は限られているが、その分英語を勉強したいという意欲の高い学生が集まる傾向にある。実践医療英語Ⅱがなくなるとこのような学生が困るのではないかとということである。これについては新カリキュラムの実践医療英語で十分対応できるという結論に至った。

新カリキュラムでは英語の選択科目が3科目に増え、それぞれの特色がはっきりとしている。ベーシック・イングリッシュでは初級者から中級者を対象とし、実践医療英語では中級者以上を対象と想定している。実践医療英語のみが2年次からの選択となっており、英語以外の科目も含めてそれ以外の選択必修科目は1年次から選択可能である。学生は選択必修科目を1年次の履修で終えてしまう傾向が強いため、実践医療英語は医療英語を更に勉強したい学生、つまり現在のカリキュラムの実践医療英語Ⅱを履修するような学生が履修すると思われる。そうであるならば実践医療英語を実践医療英語Ⅰの替わりとするのではなく、より実践医療英語Ⅱに近い内容で行うことで学生のニーズに応えられるはずである。

### 3. 学生の英語に対する意識

アンケートでは、学生が英語を学ぶことに対してどのように考えているのかという点についても調査し

た。

まず、英語が好きであるかどうかについては、「好き」、「どちらかといえば好き」を合わせて30.6%、「どちらともいえない」が36.2%、「嫌い」、「どちらかといえば嫌い」を合わせると33.2%となり、好き嫌いについては偏りが見られなかった（図5）。

次に、英語学習に対する意欲を見てみると、「積極的に学習したい」と「ある程度は学習したい」を合わせて72.3%にのぼり、英語は好きではないが学ばなければならないと考えている学生がある程度いることがわかる（図6）。

さらに、この先英語が必要になると思うかという点については、「必要になると思う」と「どちらかといえば必要になると思う」を合わせて92.1%にものぼり、ほとんどの学生が将来英語が必要になると考えていることがわかる（図7）。

以上の点から、多くの学生は好き嫌いにかかわらず将来のために英語学習が必要だと認識して授業に参加していると考えられる。したがって、学生の卒業後にも目を向けてカリキュラムを考えることも重要である。

## V. 結論

2022年度の新カリキュラムにおける英語科目について、学生へのアンケート調査の結果を基に検証した。新設される2科目は教職員による話し合いによって決まったという経緯のため、アンケートにより学生のニーズを調査した。その結果として、本科目は学生のニーズに合った適切な設置であったことを裏付けることができた。現在のカリキュラムから引き継がれる既存の科目についても、新科目の設置によって、これまで以上に医療英語に力を入れることが可能となり、より学生のニーズに合った授業へと改善できることを示した。

また、アンケートの結果から、予想以上に多くの学生が資格英語に興味を持っているということが分かった。ただし、これらの学生が、実際に受験料がかかるということや継続的な学習が必要であるということをしかりと認識しているかどうかには疑問が残るため、今後より詳しい調査を行う必要がある。さらに、英語が好きであるか嫌いであるかにかかわらず、英語学習に意欲的である学生が多いこと、そして90%以上の学生が英語の必要性を自覚しているということも分かった。このようなことがはっきりと数字で示されたことは大きな収穫である。今回のアンケート調査の結果を踏まえながら、今後も継続調査を行い、授業改善に努めていきたい。

## 注

- i 総合英語Ⅰと総合英語Ⅱを合わせて総合英語と表記する。
- ii センゲージラーニング株式会社の『Caring for People: 医療分野で働くためのコミュニケーションコース』をテキストとして使用。
- iii 学生の記述をそのまま記載している。「YouTubeなどの動画を見て英会話の練習をしている」といったような意味だと解釈した。



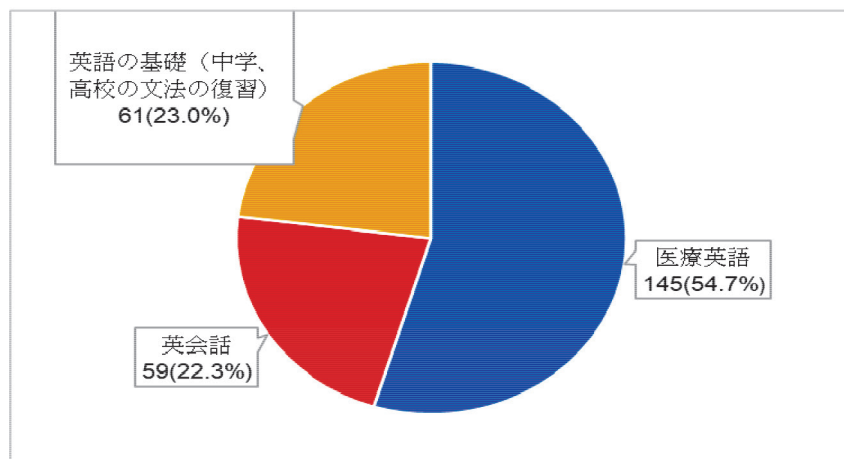


図1. 了徳寺大学でどのような英語科目を履修したいですか？ 1つ選んでください。

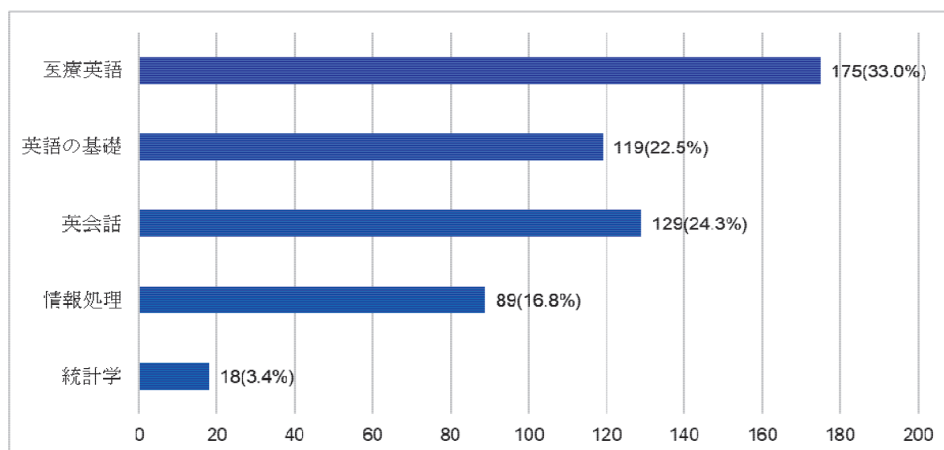


図2. 次の科目から2科目選択しなければならないとき、どの科目を選択しますか？

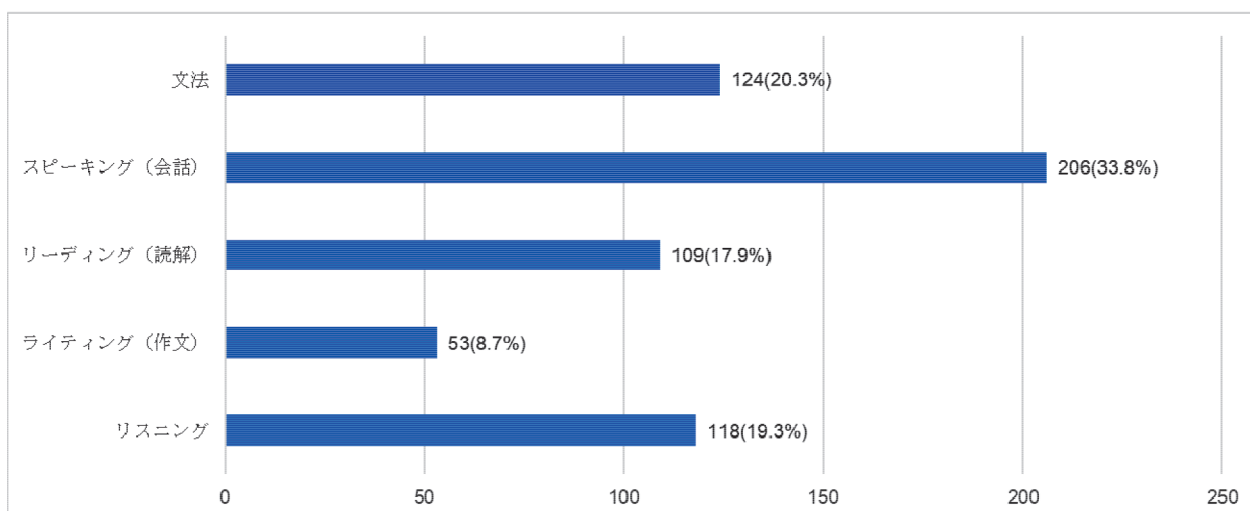


図3. 英語の授業で何を学びたいですか？複数回答可。

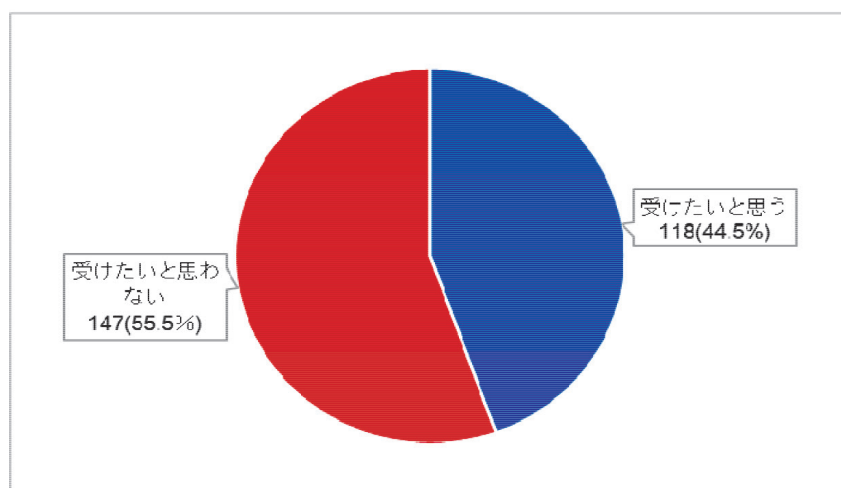


図4. 英語の資格取得対策の授業を受けたいと思いますか？

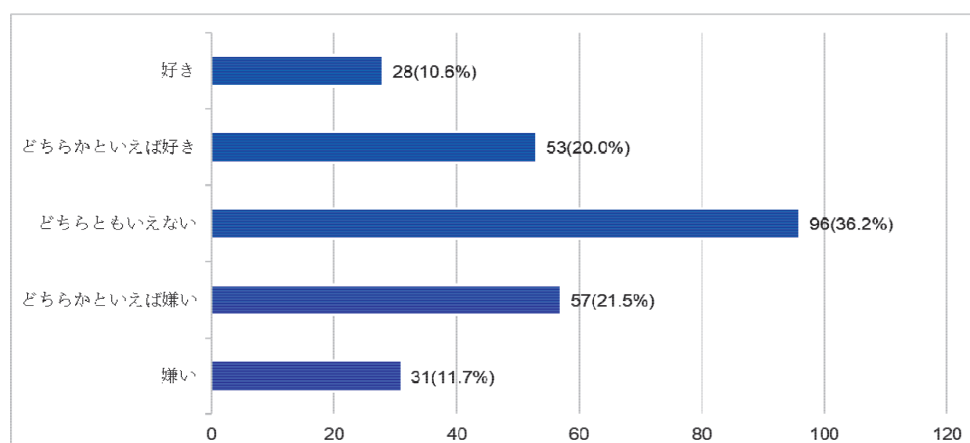


図5. 英語は好きですか？

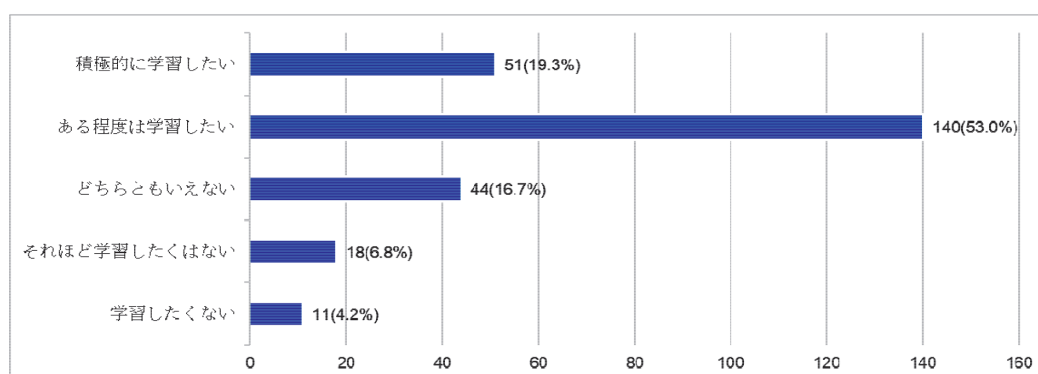


図6. 英語学習に対する意欲について教えてください。

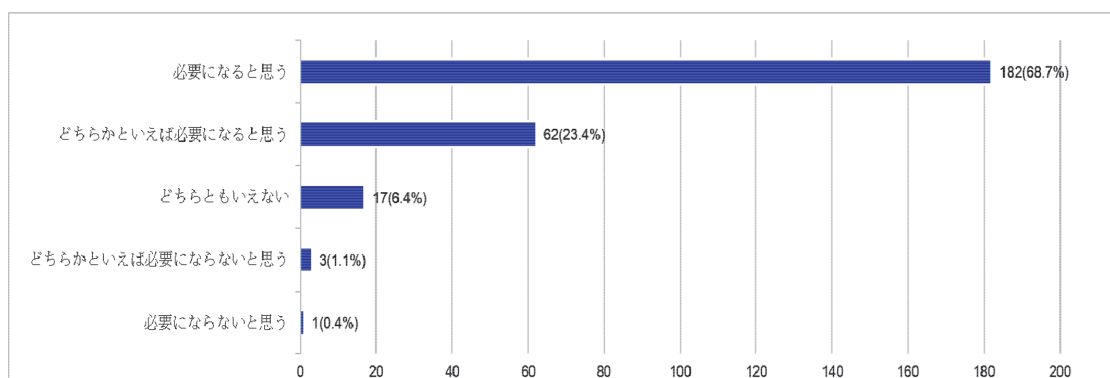


図7. この先英語力は必要になると思いますか？

以下のアンケート項目をGoogleフォームで作成した。

#### 英語についてのアンケート

◇所属学科を教えてください。

1. 理学療法学科
2. 整復医療・トレーナー学科
3. 看護学科

◇担当教員を教えてください。

1. 林先生（火1）
2. 林先生（火2）
3. 鄧先生（火1）
4. 鄧先生（火2）
5. 出縄先生（火2）
6. クリスティーン先生（水1）
7. クリスティーン先生（水2）
8. サラングル先生（水1）
9. サラングル先生（水2）
10. 皆川先生（水1）
11. 皆川先生（水2）
12. 林先生（木2）
13. 出縄先生（木2）
14. 鄧先生（木2）
15. クリスティーン先生（木2）

◇了徳寺大学でどのような英語科目を履修したいですか？1つ選んでください。

1. 医療英語

2. 英語の基礎（中学・高校の文法の復習）

3. 英会話

◇次の科目から2科目選択しなければならないとき、どの科目を選択しますか？

1. 医療英語

2. 英語の基礎

3. 英会話

4. 情報処理

5. 統計学

◇英語の資格取得対策の授業を受けたいと思いますか？

1. 受けたいと思う

2. 受けたいとは思わない

◇英語の授業で何を学びたいですか？複数回答可.

1. スピーキング（会話）

2. 文法

3. リーディング（読解）

4. ライティング（作文）

5. リスニング

◇英語学習に対する意欲について教えてください.

1. 積極的に学習したい

2. ある程度は学習したい

3. どちらともいえない

4.それほど学習したくはない

5. 学習したくない

◇この先英語力は必要になると思いますか？

1. 必要になると思う

2. どちらかと言えば必要になると思う

3. どちらともいえない

4. どちらかと言えば必要にならないと思う

5. 必要にならないと思う

◇大学の授業の予習・復習・試験勉強以外に英語を勉強していますか？している場合はどのような勉強ですか？



1. していない
2. している (                      )

## 謝辞

アンケートの実施に協力してくださった本学英語非常勤講師, ならびにアンケートに回答してくださった学生に深く感謝いたします.

## 引用文献

- 1) 文部科学省 (2014) 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～.  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm)  
(2021.09.06 14:00アクセス)
- 2) 平野亜也子 (2021) 「特別英語」カリキュラム開発のための学生に対するニーズ分析: 英語習熟度と選好性との関係. 京都産業大学論集. 人文科学系列. 54. 197.
- 3) 高木久代 (2008) 医療系大学における英語教育. 鈴鹿医療科学大学紀要. 15. 41.
- 4) 杉山明枝 (2010) 医学英語に対する理学・作業療法士学生のニーズ. Journal of Medical English Education. 9(1). 39.
- 5) 寺内一ほか (2010) 21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践, 大修館書店, 東京. 21.
- 6) Long, M. H. (2005) Methodological issues in learner needs analysis. CUP, Cambridge.
- 7) 藤本貴之, 松尾徳朗 (2004) 選択科目における学生の嗜好に基づいた授業選択/クラス編成支援システム. コンピュータ & エデュケーション. 15. 89-90.
- 8) 神谷雅仁 (2014) 英語学習を促進させる動機付けと環境づくり—学生生活実態調査から見てきた学生像の分析から—, 上智大学短期大学部紀要. 35. 100.
- 9) ムヒナ・ヴァルヴァラ (2019) 外国語学習者の動機づけの測定方法—英語とロシア語, 「必修科目」と「選択科目」の比較—. Eruditi: The CGCS Journal of Language Research and Education. 3. 51.

2022年1月5日 受理

了徳寺大学研究紀要 第16号

